日本遺産『古代日本の「西の都」~東アジアとの交流拠点~』



およそ 1300 年前、筑紫の地に誕生した「西の都」大宰府。飛鳥時代に築かれた城砦を外郭に活かし、「遠の朝廷」である大宰府を中心に築かれた東アジア標準の碁盤目の都市は、政治・文化・宗教・軍事の拠点として、東アジアと日本の文化が交錯する「都」であった。

$N_{0.3}$ 『いにしえの要塞』



▲全長 1.2km に及ぶ水城跡。立ちはだかる"壁"は、時代の緊張感を伝える。

663年、朝鮮半島の百済救援に向かった倭国(当時の日本)は、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍との戦いに敗れ、海外からの脅威が現実的なものとなります。そして、筑紫大宰(大宰府の前身)は、博多湾付近からより安全な南方へ施設の移転を余儀なくされたのです。移転地は、南北に山が迫る盆地状の地形で、南北陸路の要衝でした。

戦いの翌年、1.2 kmの長大な土塁と外濠からなる水城を築いて、北西に広がる平野を遮断しました。そして、この城壁と接続する砦として北の四王寺山に大野城、南の基山に基肄城を対峙するように築き、所々に築いた土塁や自然の要害で周囲の守りを固めました。つまり、この地に移転した筑紫大宰は、北の博多湾、南の有明海から上陸してくる敵に備え、四方に防衛線を巡らせて要塞化を図ったのです。

この壮大な防衛構想は、百済最後の王都・扶余を手本としたもので、百済 官人の指導の下、最先端の土木技術を取り入れ、多くの人びとを動員して、 巨大な防衛施設を短期間で築造していったのです。この筑紫大宰の中枢施設 は、後の大宰府の原形となるものでした。

その後、海外からの脅威が去ると、この要塞の城壁を外郭として活かした、 壮大な「西の都」大宰府が成立します。そして、東アジア諸国との外交が再 開されると、水城の西門は博多湾からやってくる外交使節を迎える大宰府の 玄関となりました。



▲およそ 180mもの石塁が連なる百間石垣は、大野城の堅固さを語る。



▲大野城と同じ 665 年に築かれた基 肄城も谷を遮る石塁が壮観。

No. 3 『いにしえの要塞』 おすすめコ-須恵町 JR 水城駅 須恵 P 夏安中 惠 須恵510 福岡空港 志免町 水城跡・水城断面ひろば 新原駅 大野城心のふるさと館 水城跡(東門)・水城館 竹下駅 月隈 J C T 宇美 大野城跡 (水城口城門) 器山 京駅 9 四王寺県民の森 大野城跡 (百間石垣) 雑餉隈駅 🔾 野城市 有福岡駅 宇美町立歴史民俗資料館 E3 春日駅 JR 宇美駅 太宰府市 春日市 太宰府駅 宰府跡 9 JR 水城駅 都府楼南野 宮地岳 水城跡・水城断面ひろば 90 筑紫野市 天:**Q**U (257 牛頭ダム 朝倉街道駅 水城跡 (西門跡) 天拝山駅 市 筑前山家駅 筑紫野 I C 华頭山 水城跡 (ゆめ広場) 水城跡(上大利水城跡) 原田駅 JR 水城駅 推定春日土塁(春日神社) Ti JR けやき台駅 基山 水城跡(大土居水城跡) 三国が丘駅 南畑ダム (南水門) き台野 權現山 水城跡(天神山水城跡) (山頂) 基山町 整山駅 九干部山 JR 博多南駅 山ダム JR 基山駅 小郡市

日本遺産『古代日本の「西の都』〜東アジアとの交流拠点〜』は、平成 27 (2015) 年に文化庁から認定を受け、その範囲は福岡県筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市・宇美町、佐賀県基山町に広がっています。

詳しくは知りたい方は 公式ホームページまで☞

Q 検 索

西の都

